

## レオポルド ワイス (政治家 ジャーナリスト、オーストリア) (パート 1 / 2)

説明：

ドイツとヨーロッパにおいて最も権威ある新聞の一つであるフランクフルト ツァイトゥングのある特派員がムスリムとなり、後にクルアーンの意味を翻訳する。パート

より イブラーヒム A. パワニー

掲載日時 06 Dec 2009 - 編集日時 12 Dec 2009

カテゴリ：[記事](#) > [新改宗者ムスリムの逸話](#) > [著名人](#)

ドイツとヨーロッパにおいて最も権威ある新聞の一つであるフランクフルト ツァイトゥングのある特派員がムスリムとなり、後にクルアーンの意味を翻訳する。パート1

ムハンマド アサドはレオポルド ワイスとして1900年7月、当時オーストリア帝国領で現在はポーランド領であるリボフの街（ドイツ語でレンベルク）、に生まれました。彼は長く続くラビの系統の子孫でしたが、弁護士になった彼の父によりその系統は崩れ途絶えました。アサド自身、家系のラビの伝統を維持する資格を得るような教育を徹底的に受けました。



1922年ワイスは、エルサレムの叔父を短期訪問するつもりで、中東へ向けてヨーロッパを立ちました。その段階ではワイスも彼の多くの同世代の者たち同様、自分自身を不可知論者だとし、宗教的な勉強をする一方でユダヤ教の拠り所から離れていました。彼は中東においてアラブ人を知り、彼らに好意をもつようになりました。そしてイスラームがいかに関わりの生活において存在の意味、精神的な強さ、そして心の平安を植え付けているのかということに心を打たれました。

22歳の若さで、ワイスはドイツとヨーロッパにおいて最も権威ある新聞の一つであるフランクフルト ツァイトゥングの特派員となりました。彼はジャーナリストとして広く旅し、庶民と交流し、ムスリムの知識人達との話し合いを持ち、またパレスチナ、エジプト、ヨルダン、シリア、イラク、イラン、アフガニスタンの党首らに会いました。

そして旅と読書を通して、その啓典、歴史、人々への理解が膨らんでいく中、ワイスのイスラームへの関心はより強まりました。好奇心がそう促したのです。

ムハンマド アサド、すなわちレオポルド ワイスは、1900年にオーストリア領リバウ（後のポーランド）で生まれ、

22歳の時に初めて中東を訪問しました。彼は後に、フランクフルト ツァイトゥングの優秀な外国人特派員となり、イスラームへの改宗後、北アフリカから東はアフガニスタンにまでくまなく旅をし、イスラーム世界で仕事に勤しみました。そして

何年もの献身的な研究の後、彼は我々の時代の主要なイスラーム学者の一人となりました。パキスタンの建国後、彼はイスラーム復興部門の指導者に任命され、西パンジャブ、そして後に、国連におけるパキスタンの代理の代表となりました。ムハンマド アサドの2冊の代表的著書は：「イスラームの岐路」と「メッカへの道」です。彼はまた、聖クルアーンの

英語翻訳と月刊誌アラファトも出版しました。

Let us now turn to Asad ' s own words on his conversion:

それでは、これから彼の改宗についてのアサド自身の言葉へと目を向けていきましょう。

この記事のウェブアドレス :

<http://www.islamreligion.com/jp/articles/165>

Copyright © 2006-2011 [www.IslamReligion.com](http://www.IslamReligion.com). All rights reserved.